

平成28年度に係る業務の実績に関する評価結果
国立大学法人筑波大学

1 全体評価

筑波大学は、あらゆる面で「開かれた大学」となることを目指し、固定観念に捉われな
い「柔軟な教育研究組織」と次代の求める「新しい大学の仕組み」を率先して実現するこ
とを基本理念としている。未来を構想しその実現に挑むフロントランナーとして、第3期
中期目標期間においては、同大学に根ざす人材育成マインド「師魂理才」の下、地球規模
課題の解決に向けた知の創造とこれを牽引するグローバル人材の創出を担う世界的な研究
教育の拠点としての機能を充実・強化させるべく、国境や機関、制度といった様々な「壁」
を越えたトランスポーター連携による研究教育の展開等を基本目標として掲げている。

この目標の達成に向け、学長のリーダーシップの下、学位プログラム制への全学的移行
に向けた方針やスケジュール等を公表するとともに、新たな組織評価方法の導入や社会還
元型研究の推進に向けた研究施設・設備の共用化を進めるなど、「法人の基本的な目標」に
沿って計画的に取り組んでいることが認められる。

（「戦略性が高く意欲的な目標・計画」の取組状況について）

第3期中期目標期間における「戦略性が高く意欲的な目標・計画」について、平成28年
度は主に以下の取組を実施し、法人の機能強化に向けて積極的に取り組んでいる。

- 学生本位の視点に立った教育を提供し教育の質を確保する観点から、教育課程の学位
プログラム制への全学的移行に向けた方針とスケジュールを含む「筑波大学の教育改革
の全体像」を策定し、ウェブサイトに掲載・公表している。（ユニット「国際的互換性・
国際的協働性を持った教育システムによるグローバル人材の育成」に関する取組）
- 各研究センターを「先端研究センター群」、「社会還元センター群」、「研究教育支援セ
ンター群」の機能別に分類するとともに、R1（世界級研究拠点）からR4（育成研究拠
点）までの級認定を行い、5年ごとに研究実績による評価を行うシステムを導入する計
画を策定している。（ユニット「研究システム改革による世界トップレベルの最先端研究
の展開」に関する取組）
- 筑波研究学園都市内の大学、研究開発法人、企業研究所等との一体的なイノベーショ
ン研究プラットフォームの形成に向けて、つくば臨床医学研究開発機構（T-CReDO）を
全学組織として設置し、大学及び筑波研究学園都市を中心とする研究機関の医療技術に
関する100件を超える研究成果（シーズ）の収集・登録を行っている。（ユニット「イノ
ベーション創出拠点TSUKUBAを中核としたイノベーションエコシステムの形成による
産業競争力の強化」に関する取組）

2 項目別評価

<評価結果の概況>	特 筆	一定の 注目事項	順 調	おおむね 順調	遅れ	重大な 改善事項
(1) 業務運営の改善及び効率化			○			
(2) 財務内容の改善			○			
(3) 自己点検・評価及び情報提供			○			
(4) その他業務運営			○			

I. 業務運営・財務内容等の状況

(1) 業務運営の改善及び効率化に関する目標

①組織運営の改善 ②法令遵守等 ③事務等の効率化・合理化

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載9事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 経営的観点からの中長期戦略策定のための体制整備

学長直轄の「大学戦略室」を設置し、経営的な観点からの法人の中長期的なビジョンと戦略に関する検討を開始している。社会環境の変化要因に応じて考えられる「教育目的や内容の在り方」、「規模の在り方」、「新たな事業の拡大の在り方」等様々な選択肢を提示することとして、「中長期の大学戦略に関する検討状況（中間まとめ）」を取りまとめている。

○ LGBTへの支援体制の強化

LGBTに対する支援を本格的に実施することを目的として、「LGBT等に関する筑波大学の基本理念と対応ガイドライン」を作成し、ダイバーシティ・アクセシビリティ・キャリアセンターダイバーシティ部門内に相談窓口を設置するなど、支援体制の強化を進めている。

(2) 財務内容の改善に関する目標

①外部研究資金、寄附金その他の自己収入の増加 ②経費の抑制 ③資産の運用管理の改善及び施設設備の整備・活用等

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載8事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ クラウドファンディングによる寄附金の獲得

クラウドファンディング事業者と契約を締結し、研究費（デジタルネイチャー研究を補助する「新たな研究領域における環境整備」）や学生活動費（「箱根駅伝復活プロジェクト支援」）の募集を行い、総額1,197万円の寄附金を獲得するとともに、附属図書館において、若手職員によるプロジェクトチームを組織し学生用図書や学生用雑誌の充実を目的とする寄附を募った結果、約3カ月半という短期間で目標額（300万円）を超える約510万円の資金を獲得している。

○ 会計業務の一元集中化による合理化の推進

全学会計センターへの会計業務一元集中化を平成28年7月から本格実施している。一元集中化に合わせて会計業務を更に効率化するため、人員配置や役割分担の見直しを図るとともに、業務マニュアルの策定による業務の適正化・統一化、財務会計システムの利用方法・作業工程の改善、旅費計算書の簡素化等15項目にわたる幅広い見直しを行っており、これらの業務見直しにより、試行開始時と比較して人件費換算で4,700万円（約21%）の削減効果をあげている。

(3) 自己点検・評価及び当該状況に係る情報の提供に関する目標

①評価の充実 ②情報公開や情報発信等の推進

【評定】中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載4事項全てが「年度計画を上回って実施している」又は「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

16 筑波大学

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 定量的評価指標を用いた組織評価

透明性と公平性を備え、社会に対して説得力のある自己点検・評価を行うため、査読付き原著論文や国際共著論文、著書等の総数、外部資金の獲得や共同研究の受入状況、志願倍率や外国人学生率、学生の海外渡航率や進学・就職率等研究及び教育の活動状況を示す定量的評価指標（研究分野一系・センター：指標15項目、教育分野一学群：指標6項目、研究科：指標8項目）を定め、試行・検証を経て、各教育研究組織の評価に活用する制度の運用を本格的に開始している。

(4) その他業務運営に関する重要目標

①安全管理

【評定】 中期計画の達成に向けて順調に進んでいる

(理由) 年度計画の記載2事項全てが「年度計画を十分に実施している」と認められるとともに、平成27年度評価及び第2期中期目標期間評価において評価委員会が指摘した課題について改善に向けた取組が実施されているほか、下記の状況等を総合的に勘案したことによる。

平成28年度の実績のうち、下記の事項に課題がある。

○ 情報セキュリティマネジメント上の課題

情報セキュリティについては対策が講じられているものの、情報セキュリティを脅かす確率が高い事例が発生していることから、再発防止に向けた組織的な取組を更に実施することが望まれる。

Ⅱ. 教育研究等の質の向上の状況

平成28年度の実績のうち、下記の事項が注目される。

○ 学位プログラムの拡充

グローバル教育院で運営する全学的な学位プログラムとして、既存の2プログラムに加え、研究開発独立行政法人や民間企業、大学共同利用機関法人との協力により、新たにライフイノベーション学位プログラムを開設・実施している。

○ 学内外への機器共用体制強化と機器利用環境の総合的な効率化

学内外への機器共用体制強化と機器利用環境の総合的な効率化を進めている。平成28年度は、オープンファシリティ登録部局による相談会の実施等学内外の新規利用者開拓のためのPRを積極的に行うとともに、課金制Webシステムを通じて、共同利用機器154台、委託業務（技術代行）15業務の運営を行っている。

○ 新たな大規模スーパーコンピュータシステム導入による研究実施体制の整備

計算科学研究センターでは、東京大学情報基盤センターと共同設置した「最先端共同HPC基盤施設」において、最先端の計算機資源であり国内最高性能となる総ピーク演算性能25PFLOPSを達成する新たなメニーコア型大規模スーパーコンピュータシステム「Oakforest-PACS」を導入し、計算科学分野の研究者に対する研究実施体制を整備している。

附属病院関係

（教育・研究面）

○ 医療シーズの技術移転・実用化の推進

国立研究開発法人日本医療研究開発機構（AMED）による橋渡し研究戦略的推進プログラム（TR拠点）継続9拠点に加えて、「オープンイノベーションの推進により世界のつくばから医療の未来を加速開拓する事業」が唯一の新規拠点として採択され、産官学の研究所が集積する筑波研究学園都市にて生み出される医療シーズの技術移転・実用化が推進されている。

○ シミュレーターを活用した医療人の養成

様々な教育シミュレーターの整備や、外科学教育システムの専用スペースを設けた、323㎡の面積を有する医療技術トレーニングセンターを新設し、模擬患者を使った医療面接（がん告知）トレーニングのグループワーク等、利用者による効果的な利用を可能としているほか、院内外の医療関係者等を対象とした各種研修を開催するなど、院内外における高質な医療人の養成に取り組んでいる。

(診療面)

○ 大学の特性を生かしたスポーツ医学・医療の強化

国立大学で唯一、体育系と医学医療系の専門家集団を有する特性を生かし、両組織の連携によるシームレスな総合的スポーツ医学をプロデュースするつくばスポーツ医学・健康科学センターを本格稼働させ、トップアスリートをはじめとしたスポーツ障害に対する効率的な予防及び治療、スポーツ医学への再生医療技術の応用に係る研究、生活習慣病患者に対する病態改善に向けた運動療法の実践等、国内トップレベルのスポーツ医学・医療の強化を推進している。

(運営面)

○ 病院経営改善に向けた収支に係る取組

手術人数の増加、初診患者（入院）の増加、病床稼働率の向上、在院日数の短縮等に取り組んだ結果、診療単価が上昇（外来：対前年度比877円増、入院：対前年度比3,071円増）し、病院収入金額は約305億2,000万円（対前年度比約12億4,000円増）となっている。一方、委託業務内容の見直し、医薬品等診療材料の購入価格見直し、光熱水料費を含む管理的経費の見直し等に取り組んだ結果、約6億6,000万円のコスト削減を行っていることにより、約299億円（対前年度約6億5,000万円増）の支出を抑制し、2期連続の黒字化を実現している。